

星槎国際湘南 第3期 SEISA スポーツ奨学生 卒業おめでとうございます！



カウン君、ヤミンさん、スーさん、ダイモン君、メルハウィ君、高校ご卒業おめでとうございます！

星槎グループと世界こども財団のSEISA スポーツ奨学生プログラムを通じて、2019年にミャンマー連邦共和国から3名、エリトリア国から3名（うち1名は既に卒業し昨年4月に星槎道都大学へ入学）が来日しました。そして、今春、星槎国際高校湘南を5名が卒業しました。文武両道、勉強とそれぞれの専攻スポーツに励んだ日本での3年間の留学生活、そして、これからについて話してもらいました。

カウ 3年間練習も勉強も一生懸命やってきて大変だったけど、今は達成感があります。国に帰ることは嬉しいけれど、友達と別れるのは悲しいです。星槎ではたくさんの仲間ができました。大会で負けて悲しい時や、家族と離れて寂しい時に、仲間が支えてくれました。日本語でも仲間という言葉が一番好きです。ミャンマーに帰ったら国の状況にもよるけど、大学に行きたいです。星槎で空手のトレーニングをして、強くなることができました。これからも空手は続けるつもりです。そして、いつかミャンマー代表になりたいです。



ヤミン 卒業できて嬉しいです。星槎での3年間は楽しかったです。学校は、体育祭とかスポーツテストは、楽しいことがいっぱいありました。毎日空手を練習し、筋肉、スピード、技を鍛えることができました。帰国後はヤンゴン外国語大学に入って、日本語を専攻したいです。3年間ありがとうございました。私は3年間星槎で学んだことを忘れないで、自分の国へ帰ったら良いところを全部、国のためにみんなに教えたいです。3年間いろいろなことがありましたが、全部手伝ってくれてありがとうございました。



スー 星槎では友達もいっぱいできたし、勉強も分かりやすかったです。寮でも美味しいご飯を食べたり、友達とゲームしたりとか、いっぱい楽しいことをしました。日本語で「頑張る」という言葉が好きです。空手の練習が辛くて、時々もう疲れて諦めたい気持ちになったけど、自分に頑張れ、頑張れと言って、自分のことを応援してきました。技もよくなったし、体も強くなりました。将来はキャビン・アテンダントになって、家族を支えたいです。皆さんのおかげで日本に来て、空手も勉強もいっぱいできました。今までありがとうございました。



ダイヤモンド 卒業を迎えて嬉しい気持ちです。星槎はみんな優しいし、笑顔で助けてくれる人が多かったです。3年間、陸上を続けてもっといいタイムが出るようになりましたし、心が強くなりました。星槎道都大学に入ってから、勉強とスポーツを頑張りたいです。北海道ではスキーもやってみたいです。卒業できたのは皆様のおかげです。3年間ありがとうございました。これから来る留学生の皆さん、最初はここでの生活や日本語も慣れないことが多いと思いますが、頑張ってください。



メルハウィ 星槎ではたくさん楽しいことがありました。年末年始に箱根に皆で行ったことが良い思い出です。日本に来て、星槎国際湘南高校の陸上部で、とても良いトレーニングをすることができました。長距離を走るようになり、自己ベストを更新することができました。エリトリアに帰ったら、首都のアスマラで陸上の練習を続けていきたいです。日本で沢山の人の世話になりました。これから来る新しい留学生たちにも、どうか同じように支援してください。3年間ありがとうございました。



ペマ・セルデンさん、ご卒業おめでとうございます！

また、星槎グループと世界子ども財団の支援によって、2018年にブータン王国から来日し、東京大学公共政策大学院（GraSPP）の修士課程を修了したペマ・セルデンさんからもメッセージが届いています。

※原文ママ

ペマ・セルデン 私は、ヒマラヤの小さな王国、ブータンから来ました。来日前の私は、今のよう素晴らしい環境に自分がいるとは想像もしていませんでした。宮澤会長、星槎グループ、そしてFGCの皆さんは、そんな私を受け入れてくれて、一生に一度のチャンスを与えてくれました。ありがとうございました。

私の生涯の願いは、可能な限り最高の教育を受けることであり、そのために、生涯をかけて懸命に戦っていくことだと思っています。今、私は世界で最も有名な大学の一つを卒業しようとしています、これはひとえに全て宮澤会長と星槎の寛大さによって実現したものです。

東京大学は、私の憧れの大学であり、今、誇りを持って母校と呼ぶことができます。日本での3年間、私は想像しうる限り、それ以上に特別な配慮をしていただきました。繰り返しになりますが、宮澤会長、星槎グループ、そしてFGCには、表現しきれないほどの感謝の気持ちでいっぱいです。この素晴らしい機関のおかげで、私は今ここにいるのです。

GraSPPの卒業式は、2022年3月24日（木）に東京大学大講堂（安田講堂）において、令和3年度東京大学学位記授与式（対象：大学院修了者）が挙行されました。また、私はGraSPPのキャンパス・アジア・ダブルディグリー・プログラムの一環として、韓国のソウル大学大学院に在籍しています。こちらの大学は、2022年8月に卒業する予定です。

星槎は、その存在を知るすべての人にとって、希望の光だと思います。日本に留学していたブータン人学生の窮状を聞いた後、星槎＝宮澤会長は直ぐに困っている学生に一時的な住居と食料を提供してくださいました。また既に日本に来た別のRTC（ロイヤル・ティンブー・カレッジ）卒業生を雇用するところまでしてくれました。私は、これからも星槎とブータン、そして、RTCの友情が永遠に続くことを祈るばかりです。

最後に、宮澤会長、星槎グループ、そしてFGC、サポートしてくれた皆様に、あらためて心からお礼を申し上げます。これからは、私が支援して頂いた以上に恩返しができるよう、両国の架け橋になるよう、更なる努力をしていく所存です。どうもありがとうございました。





アフリカ各国での支援活動

続・コロナ禍でもネットワークを生かして草の根の支援を!

FGC ニュース 28 号では、マラウィ、ブルキナファソ、サントメプリンシペの 3 カ国で、コロナ禍でもこれまで築いてきたネットワーク、そして信頼できるパートナー（世界で活躍するアマチュア無線家のみなさん）の力を借りて、草の根の支援活動を実施できたことをご報告しました。今回はその続編、さらにガンビア、ブルキナファソでの支援と、コートジボワールからの続報をお届けします！

小学校に 4 台のトイレを寄贈

ガンビア

2021 年 11 月、Luc Thibaudat さんをはじめとするフランスのアマチュア無線家チームが、西アフリカのガンビア共和国を訪問。宮澤保夫理事長とのリモートでの協議を経て、衛生環境に深刻な課題を抱えていた現地の小学校に、トイレ 4 台を寄贈しました。また、同じく Luc さんたちとの協働で、井戸を建設するプロジェクトも進んでいます。



ロバに乗ったサンタクロース

ブルキナファソ

ドイツのアマチュア無線家の Harald さんは、昨年 6 月に FGC の支援の一環として、ブルキナファソのこどもたちに自転車をプレゼントするプログラムに協力をしてくださいましたが、その後、早くも昨年 12 月に現地を訪問、自らサンタクロース役を買って出、Santa Clause on Donkey（ロバに乗ったサンタ）としてこどもたちに、FGC と共同で用意した小さな贈り物を届けました。こどもたちからはお礼に、星槎と FGC のマークの入った絵が贈られました。



小学校への贈り物

コートジボワール

昨年 10 月にサントメプリンシペでの支援に協力してくれた Petr さんをはじめとするチェコのアマチュア無線家チームが、2022 年 2 月にコートジボワール共和国を訪れ、前回同様、現地の学校関係者と協議の上、必要な物を調査、FGC からの寄附金で物資を購入し、こどもたちに教材や学校備品等を届けました。



冬季五輪への挑戦！

昨夏開催された東京 2020 オリンピック・パラリンピックに続いて、北京 2022 オリンピック冬季大会が多くの感動と共に閉幕しました。今冬季五輪アフリカ大陸から 5 カ国 6 人の選手が出場していました。エリトリア国からはシャノン・アベダ選手がアルペンスキー男子大回転に出場しました。

シャノン選手は、エリトリア初の冬季オリンピック選手で、3 歳の時にアイススケートを始めました。当初はアイスホッケーの選手になりたかったが、危険すぎるという両親の意見で断念。2011 年、両親の出身国であるエリトリア代表としてスキーに出場することを決意し、2012 年にユースオリンピックへの出場が決定しました。両親は 1980 年代にエリトリアで起きた戦争から逃れ、カナダに移住してきました。「7、8 歳の頃、オリンピックの表彰台に立つ自分の絵を描いていたんです。こどもの頃はこういう夢を持って話すものですが、まさか自分がここにいるとは思っていなかった」と、平昌 2018 大会でオリンピックチャンネルのインタビューに答えています。

重量挙げ選手でプログラマーでもあるシャノン選手は、平昌直後にアルペンスキーからの引退を突如と表明し、ボブスレーへの転向も検討しました。しかし、2021 年 9 月に予選突破を目指してスキーを再開、3 カ月後に五輪出場枠を確保すると、ほっと胸をなでおろしていました。

「あまりにもシュールで、まだ実感がわかりません。2 度目のオリンピック出場が正式に決まりました。約 2 カ月前、私はタオルを投げつける寸前でした」と自身のインスタグラムに投稿しました。「もっと自分のストーリーを共有し、自分の声を使って、エリトリアやディアスポラ出身の未来の世代の冬季オリンピック選手を鼓舞したい」です。

試合後、「前回のオリンピックを糧に、より良い結果を出したか

エリトリア

った。前回大会では、残念ながら小さなことにとらわれてしまい、より大きな視点で考えることができませんでした。平昌での経験を生かし切れず、競技に夢中になりすぎました。楽しむことそのものを忘れていました。」

しかし、前大会に続いて 2 回目の出場となったシャノン選手は、総合 39 位、素晴らしい結果を残して冬季五輪を終えることが出来ました。



シャノン・アベダ選手



2022 北京冬季五輪開会式

更なる進化へ ～ IMPOSSIBLE (不可能) から I'M POSSIBLE (ちょっと工夫すればできる) ～

2021 年 10 月吉日、日本政府の支援によって建設されたブータン国内初の専用柔道道場の落成式がオンラインで開催されました。ブータン外務大臣のタンディン・ドルジ氏、在インド日本大使館の鈴木哲大使、講道館長の上村春樹氏、全日本柔道協会・会長の山下泰裕氏、そして世界各地から多くの来賓が出席し歴史的な機会を見守りました。

柔道場の落成式に参加したガワン・ナムギャル選手が次のように感謝と意気込みを語ってくれました。『私はブータンの柔道家です。今年、日本の東京で開催されたオリンピック柔道に出場することができたのは幸運でした。今日、ブータンのティンブーに新しく出来た柔道場のオープニングセレモニーに出席して、私はとても幸せな気持ちになっています。まず、ブータン柔道協会と私個人に、世界最大のスポーツイベントであるオリンピックに国を代表して出場する機会を与えてくださった皆様に、感謝の気持ちを表したいと思います。これは、私にとってとても名誉であり貴重な経験で、一生に一度の機会でした。IOC、NOC、IJF、AJJF、星槎グループ、BJA、ブータン柔道の創始者であるカルマ・ドルジ氏とリエ氏に心から感謝の意を表します。また、私のコーチである歌代勇祐先生のサポート、努力、熱意、忍耐に感謝します。そして、私が柔道を始めるきっかけを作り、今日に至るまで導いてくれたコーチの皆さんに感謝します。山崎道洋先生、堀内芳洋先生、内田美優先生。ブータンのペマ・ダルガイ先生には、私の 10 年間の柔道人生でずっとお世話になりました。4 度のオリンピックで

ブータン

オーストリア柔道代表チームキャプテン、柔道国際大使のサブリナ・フィルツモザーさんには、ブータンとヒマラヤ地域の柔道を長い間支えて頂き、ありがとうございました。～中略～ 今から 10 年前、ブータンで柔道は全く発展してなく、無名のスポーツでした。現在では、ブータンの柔道を知る人が増えています。私たちブータン柔道協会員は、今後数年間でブータン全土に柔道が正しく普及するよう努力していくことを約束させていただきます。』



ブータン柔道協会柔道家新道場に



ガワン・ナムギャル選手、インタビュー



ガワン・ナムギャル選手、柔道練習

2021 アジアユースパラ競技大会で躍進！

2021年11月27日から12月8日にかけて2021アジアユースパラ競技大会（AYPG）がバーレーン王国で開催されました。AYPGは、アジアパラリンピック委員会（APC）が主催で開催しているアジア地域の障がいのある若い世代（ユース世代）が競い合う国際総合競技大会。2003年に香港で開催以降4年に1度アジア各国で開催されています。2009年には、第2回大会を日本の東京、2013年に第3回大会をマレーシア・クアラルンプールで開催されました。若い選手にとっては貴重な国際経験を積む機会であり、パラリンピックへの登竜門として現在世界で活躍している多くの選手たちがアジアユースパラ競技大会へ過去出場しています。今回のバーレーン大会には、アジア31カ国から1,500人以上の選手が参加しました。

ブータンパラリンピック委員会（BPC）は、2020東京大会に続いて、今大会でもデビューを飾り、ブータン王国ダガナ出身の高校生サプナ・スツパ選手は、パラ・バドミントンSH6（低身長）カテゴリーの女子シングルスと混合ダブルスに出場しました。結果、サプナ選手はブータンパラアスリートとして初めて国際大会で2つの銅メダルを獲得しました。混合ダブルスでは、日本の上野友也選手とペアを組みました。

試合後のインタビューで「私は障がいを持つ人がもっとパラリンピック・ムーブメントに参加しやすくなるよう、不可能なことではないと奨励したいです。ブータンの代表として、メダルを獲得できたことは幸運だと思っています。両親、学校、ブータンバドミントン連盟、ブータンパラリンピック委員会からサポートを受けたのは幸運なことでした。」と話をしていました。

サプナ選手にとって、バーレーンは、初めての海外でした。「バーレーンで見た巨大で高いビルは、息をのむような美しさでした。多くのアスリートに囲まれ、その自信と真剣な眼差しに、もっと頑張ろうという気持ちになりました。これからも一生懸命練習して、もっと高い目標を持ちたいです。どんな状況にあっても、不

ブータン

可能なことはないということを、自分自身にも他人にも証明したいですね。どんな困難があっても、自信を持つことが大切だということ。他の人とコミュニケーションをとり、自分の内なる力を高めていきたい」と熱く語ってくれました。



アジアユース大会にて

銅メダル



ユフェルマ王女 BPC 会長と
サプナ・スツパ選手

ブータンバドミントン連盟代表コーチ
(左)、サプナ・スツパ選手（中）、ユ
フェルマ王女 BPC 会長（右）

ブータン代表@ FINA 世界水泳選手権

2021年を締め括る国際水泳選手権『第15回FINA世界水泳選手権』がアラブ首長国連邦のアブダビで開催されました。12月16日から21日にかけてヤス島にあるエティハド・アリーナで行われ183カ国以上943人が参加しました。本選手権には、ブータン人スイマーのサンゲイ・テンジン選手とキンレイ・ロンドゥップ選手も出場しました。サンゲイ選手とキンレイ選手は、FINA（国際水泳連盟）の支援を受け、12カ国以上の水泳選手とともにタイのプーケットで2年以上水泳トレーニングを専門的に続けています。サンゲイ選手は、IOCとFINAの推薦を受け特別枠で昨夏行われた2020東京大会にブータン王国代表で唯一の選手として出場しデビューを果たしました。

今回の大会では、12月16日、キンレイ選手は、男子200m個人メドレーで2分24秒を記録し、続いて翌17日、男子100mバタフライで1分01秒、共に国内記録と自己記録を更新することができました。グループステージ5位、全体79位／88人となりました。「自己ベストを更新はできました。結果は悪いことばかりではなかったと思います。でも満足はしていません」とキンレイ選手は語っていました。

12月18日、サンゲイ選手は50m自由形26秒29で国内記録と自己記録を更新、グループステージで見事1位となりましたが、全体では106人中83位であったため予選突破はなりませんし

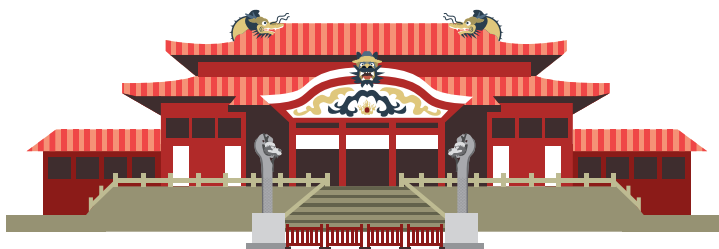
ブータン

た。サンゲイ選手は100メートル自由形にも出場しました。

ブータン人スイマーが準決勝や決勝の舞台に立つためには、まだまだ努力が必要であるとスイマーの2人は語りました。「私たちが直面している最大の問題は、出場機会がない、練習する場所がブータン王国にはないことです。私たちには、もっと一生懸命に、もっと努力しなければなりません」と話をしてくれました。



サンゲイ・テンジン選手（左）、キンレイ・ロンドゥップ選手（右）



首里城再建支援寄付金贈呈について

2019年10月31日に起きた首里城正殿焼失の直後から、星槎グループでは、世界こども財団を通して支援金受付をはじめ、さまざまなイベントで寄付を呼びかけて頂きました。継続して再建を支援する方法はないか模索し、世界こども財団と星槎国際沖縄・那覇の合同企画として「首里城再建支援プロジェクトチーム」を発足しました。さらに、両校の生徒と職員一同で何ができるか考え、沖縄の伝統的な染織技法「紅型」を用いた首里城デザイントートバックの制作、そして販売をし、その収益から寄付をすることとしました。

本プロジェクトでは、次の3つの目的を立てました。

- ・首里城再建支援のための寄付金造成（首里城デザイントートバック制作と販売）
- ・プロジェクトを通して、生徒たちが沖縄（琉球）の歴史文化を学び、再建に向け主体的に取り組む。
- ・全国から世界へつながる星槎のネットワークを通し活動を広め、星槎の理念を敷衍（ふえん）する。

首里城デザイントートバック制作では、染織作家で沖縄学習センター職員の小泉美里先生、沖縄学習センター3年生の生徒がデザインを担当し、500個を制作しました。購入いただいた方へのお礼として、手書きのメッセージカードを購入して頂いたトートバックに添えることにしました。ポストカードと感謝メッセージの作成は、那覇キャンパス3年生の生徒2名がデザインしました。

寄付先	一般社団法人 沖縄美ら島財団
贈呈式日時	2022年2月22日(火) 16:30～17:00
場所	首里城公園（公園管理センター内会議室）
参加者	沖縄美ら島財団様側 常務理事・湧川盛順 様 広報企画展示係・前田裕子 様 星槎国際沖縄 GC・那覇 CP 教員2名、在校生生徒3名、卒業生2名

プロジェクトまとめ（2022年3月1日現在）

寄付金総合計 663,126 円

内訳	トートバック総売上	1,007,000 円	売上個数 337 個 + 2000 円現金入金寄付
	実経費など支出合計	496,649 円	支出 2022/2/21 現在
	差引額をご寄付	510,351 円	※当日現金お渡し
	世界こども財団からの寄付金	152,775 円	直接指定口座へ振込



贈呈式当日の様子

贈呈式前に首里城公園を訪れ、再建に向けて工事の進む首里城正殿などを見学。以前訪れたときよりも工事がかなり進んでいることに驚き、再建を実感しました。贈呈式では、生徒たちの訪問を喜んで迎え入れてくれ、星槎の教育活動への共感や、オリンピックでの鍵山優真選手の活躍など多岐にわたる質問など頂きました。生徒たちにも質問を頂き、緊張を

解して下さいました。特にトートバック購入時に全国の皆様から頂いたメッセージを大変喜んで下さいました。トートバックとともに公園内管理センター掲示板に展示したいと仰って下さいました。最後に、本プロジェクトの生徒代表から寄付金を贈呈し、感謝状を頂き、記念撮影を行いました。

生徒たちの感想

※原文ママ

宇根底晴矢

星槎国際高校那覇学習センター在校生代表 (プロジェクト発足時の生徒会副会長)

「私は今回のプロジェクトを通して不躰(ぶしつけ)ながら楽しいと感じました。首里城が燃えてしまったのを目の前で見たのは実際に悲しかった事ではありますが、みんなと何かを作り、その利益で誰かが助かる行いをするのはとてもいい達成感と喜びを受けることができました。」

桶川翔亘

星槎国際高校那覇学習センター卒業生代表 (プロジェクト発足時の生徒会長)

「私は元々石川県生まれで、2歳の時に沖縄に来ました。今回のプロジェクトを始動させた頃は今ほど思い入れもないままでした。しかし、徐々に進めていき首里城の事を知っていくうちに色々な事を思い出し様々な思いを抱きながらプロジェクトを進めました。また、私が県外出身ということもあり、県外に友人が数名いるのですが、皆、口を揃えて「早く首里城が見たい」と言った内容でした。私はその時住む場所は違えど、首里城を見たいという思いは一緒なのだと感じました。今回のプロジェクトでは、募金とは違ったかたちで人との繋がりを感じ、人と人との繋がり大切さ、尊さを学ぶ事ができました。本プロジェクトでの寄付金贈呈を本校在学中に行う事は叶いませんでしたが、一年越しに関わる事が出来たことを本当に嬉しく思います。また、本プロジェクトが今後も後輩たちに受け継がれ様々なかたちで見られることを楽しみにしています。」

北口文

星槎国際高校沖縄学習センター卒業生代表 (紅型デザインの書「文字」担当)

「このプロジェクトに携わることができて、非常に嬉しく思っております。自分のデザインを通じて、皆さんの手元に届くということ自体が個人としても非常に嬉しかったことと、何よりも自分たちの努力のおかげで助かる方々がいることが、誰かの助けになったということが、何よりの誇りです。」

一般社団法人 沖縄美ら島財団 前田様からのメッセージ

「本日は寒い中当園までお越しいただき誠にありがとうございます。皆さまにお会いし、取り組みのご報告や生徒の皆さまの生の声に触れ、改めて首里城を応援して下さる熱い想いに心を動かされました。深く感謝申し上げます。(個人的にも、娘たちの同級生である、晴矢君にも再会することができ、この機会を作ってくださった大平先生に御礼申し上げます。) いただいたトートバックや報告資料、全国の皆さまからのメッセージ等、取り急ぎ事務所窓口展览展示させていただきました。今後、イベント時など、園内で来園者にもご覧いただく機会がありましたら、そちらでも展示させていただきたいのですが、よろしいでしょうか。」

星槎国際那覇キャンパス テーマ「世界文化遺産・首里城再建のための活動」



昨年10月31日米崎の火災で焼失してしまった首里城正殿。私たち那覇の生徒は、まずその様子を見に行くことから始めました。そこで気が付いた事は、正殿には数多くの国から集められた材料や、建築の様式、文化の交流が集約され、構成されていたことでした。



沖縄は琉球王国の時代、日本や東アジア、東南アジア各地を交易で繋ぎ、様々な交易品や文化を伝えていました。その当時の琉球の人々の気風を刻んだ鐘が、首里城正殿にかけられていました。その鐘の名は「万国津梁の鐘」。鐘に刻まれた銘文は「琉球国は南海の勝地に於て、三緯の秀を鐘め(あつめ)、大明を以てて輔車となし、日域を以てて唇齒(しんし)となす。この二中間にありて湧出する蓬萊島なり。船楫(しゅうしゅう)を以て万国の津梁となし、異産至宝は十方利(じっぽうりき)に充滿せり。」(以下略)とありました。

琉球に生きた人々は、「礼」を重んじて他国と繋がり、人々の架け橋となっていました。(守礼門の額「守礼之邦」はここからきています。)

「現代に生きる私たちができることはなんだろうか？」

その問いから始まった、那覇キャンパス・沖縄学習センターの首里城再建に向けた取り組み。首里城が再建されることは、昔から沖縄に生きる人々が大切にしていた、「礼節をもって世界との架け橋になる」ことを、(左:上:右:首里城博物館にある万国津梁の鐘 左下:首里城から海を見望する生徒会副会長)

世界に広め、お互いの理解を深め、世界中に仲間を作ることに繋がるのでは私たちは考えました。では、どうやって再建に貢献できるのか。全国の仲間から預かった寄付を届けることに加え、継続した取り組みで再建に貢献したい。私たちは琉球の誇る伝統文化「紅型(びんがた)」をモチーフにしたトートバックを製作・販売することにしました。販売を通して沖縄のことをさらに知ってもらい、売り上げを寄付することで、今後も継続して首里城再建に参加し、世界に平和の文化を伝える架け橋として活動を続けていきます。



星槎奥寺カップを開催

FGCでは東日本大震災以降、被災地の子どもたちとサッカーを通じて交流を深めるプログラムを毎年実施してきました。1月には相馬市でサッカースクールや「星槎奥寺カップ」を開催していますが、昨年は新型コロナウイルスの感染拡大により中止、2年ぶりに実施となった今年も、またも急速に拡大した感染の影響を考慮し、首都圏から私たちが現地に行く

ことは断念せざるを得ませんでした。その代わりに、現地で相馬市方面の方々に星槎奥寺カップを行ってもらうようご相談をし、7チームが参加して無事に大会を実施していただきました。今回から優勝カップを用意し、今後も継続的に大会が行えるように現地の方々と打合せをしています。次回こそはみなさんの笑顔に直接会えるよう、取り組んでいきます。



星槎奥寺カップ、2年ぶりの開催



優勝した南相馬 FC のみなさん

FGCより緊急支援のお願い

ウクライナへの緊急支援にご協力ください!

星槎グループと世界子ども財団では、これまでも国内・国外を問わず、災害支援活動、人道支援活動に取り組んでまいりました。連日報道されているように、ウクライナで軍事行動が開始され、情勢は著しく悪化しています。すでに子どもや民間人を含めた多くの犠牲者が出ており、3月後半の時点ですでに400万人以上が安全を求めて国境を越え、難民となり、ポーランド、ハンガリー、ルーマニア、モルドバといった隣国に避難を強いられています。ウクライナの人々は緊急の支援を必要としています。星槎グループ、世界子ども財団といたしましても支援金を受け付け、ウクライナの人々への支援に協力してまいりたいと思います。皆さまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。ウクライナ国の人々の生活に一日でも早く平和が戻ることを、心よりお祈り申し上げます。

【ご協力方法】

●星槎グループ各事業部に設置した募金箱へ

●送金先

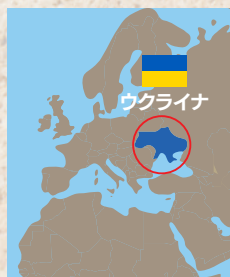
【郵便局から】 口座番号：00240-1-116684
ゆうちょ銀行 名義人：公益財団法人世界子ども財団

【銀行から】 支店：0二九（ゼロニキュウ）店
ゆうちょ銀行 口座番号：（当座）0116684
名義人：公益財団法人世界子ども財団

※通信欄に「ウクライナ緊急支援」とご記入ください



ウクライナの夕日



ウクライナ



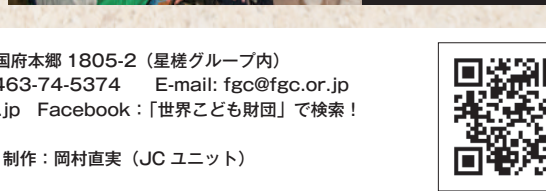
食品ミニフェア



食品ミニフェア



人道支援を受ける女性



ハリコフの子どもたち



2022年4月発行

公益財団法人
世界子ども財団

〒259-0111 神奈川県中郡大磯町国府本郷 1805-2 (星槎グループ内)
TEL. 0463-74-5359 FAX. 0463-74-5374 E-mail: fgc@fgc.or.jp
ホームページ: <http://www.fgc.or.jp> Facebook: 「世界子ども財団」で検索!
INSTAGRAM: fgc_seisa
印刷: 株式会社 Kurikindi Design 制作: 岡村直実 (JC ユニット)

